

食に関する事業についての連絡会議 報告書

日時：平成 27 年 1 月 27 日（火）13：30～15:30

場所：はぐくみセンター3 階大会議室

出席者 農林課：松村氏、学校教育課：田中氏、保健給食課：清水氏

健康増進課：西村氏、子ども園推進課：守屋氏

保健総務課：山口課長（あいさつ）、米田係長、谷田、荒益、高芝

◇各課の食に関する事業について進捗状況及び課題について

給食関係

2 月には市産食材を献立に取り入れたり、奈良産大和茶を使用した奈良市オリジナルの加工品を取り入れたりしている。

地元食材の使用を増やすこと、米飯給食の実施を週 3 回からさらに増やす方法を検討しているが、給食費の値上げにつながる。炊飯委託業者は他市にも配送しているため、すぐに対応することができない。

→奈良市学校給食地産地消推進懇談会等での検討がすすめられている

各学校単位で給食のアレルギー対応を行っており、各学校の規模によって対応が異なる。栄養教諭・学校栄養職員が配置されていない学校でも安全に給食のアレルギー対応を行うことができるように奈良市の指針を示す必要性がある。

農業振興関係

都市住民と農村住民の交流を目的とした「市民ふれあい交流事業」「交流体験事業」を行っている。

「アクティブシニア農業体験事業『プチ田舎暮らし』」はもともと公民館事業として行っており、回数を増やすため、農林課が生涯学習財団に委託して行っている。

旬菜メルカートや彩マーケットでは、生産者が直売しているが農産物の情報（調理法や栄養面、特徴など）をうまく伝えることができていない。

人がおらず、生産者が農業従事と販売を同時にするというのは難しいので、販売や広報部隊などがいると PR ができるのではないかと。

→栄養士や食育推進会議委員、食生活改善推進協議会などのボランティア団体の協力で、レシピの配布や農産物の情報を伝えることができるのではないかと。作っている野菜のリストなどがあれば、保健総務課ですでに作っている野菜レシピを利用することも可能である。

学校での食育推進事業

初任者研修では、指導主事が食育の指導を行っている。

考えてもらおうと、食育＝給食指導、給食＝総合的な学習、給食＝家庭科をいう概念を持っている先生が多かった。他にも社会＝生産・流通、理科＝食物連鎖、音楽＝口はスピーカーであり、食べることで声が出るなど、すべての授業・科目が食育とつながる。

保護者に対して啓発を行うためには、食に対する学校の意識の持ち方の改革、先生への研修が必要である。

→校園長会での食育推進の働きかけ、伝達、情報提供、各学校・園の取組み紹介を行うことでアイデアの共有ができるのではないかな。

また指導主事も含め学校の食育担当者が毎年変更する可能性もあり、引継ぎなどが課題となる。

幼稚園・保育園の食育事業

園から献立表などで保護者に対して伝統食や食文化などの紹介を行っているが、見られているかはわからない。

各幼稚園・保育園の方針が異なるため、実情を把握し、園と食育の目標を共有したり、食育ニーズを把握した上で実践を展開することが課題である。

保育所給食における食育をテーマとして研修を行った。普段から子どもの保護者と接する機会の多い保育士等に対して意識を高める研修をする必要がある。

妊婦・乳幼児への食育事業

妊婦・乳幼児・成人（主に40歳以降）を対象とした健康教室、乳幼児健診を通して食育を推進している。

乳幼児健診では対象年代のほぼすべての人に対して正しい食生活に関する情報を提供できるが、教室などは参加する人に限られるため、より多くの人に情報や知識の提供を行うアプローチ方法を検討する必要がある。

関係機関や各課の連携

市内で活動する食育実践者の情報共有・交流の場として食育ネットワーク（仮称）を設ける。ボランティア団体、生産者、飲食店事業者、食品小売店、栄養士会、子育てサークル、大学生、その他食育に関心のある人に参加してもらい交流を深めることで、活動をより進められるように努める。

今後、各課で連携できる部分は積極的に行っていくことで、さらに食育を推進する。